

楽しい夏休みになりましたね。計画を立てて、ふだんできない事にいろいろ挑戦してみましよう。

【海の日】 第三月曜(今年は七月十五日)

「海の日」は、平成七年に祝日法が改正された折に制定されたので、他の祝日に比べると最も新しい祝日。正確な由来に遡ると昭和十六年に七月二十日を「海の記念日」としたのを引き継いでもの。この七月二十日とは、明治天皇が明治九年の東北・北海道ご巡幸の折、陸路の旅は青森まで、あとは海を渡って函館に巡航され市内ご視察の後、海路でご帰還、横浜港に到着された日です。

このご巡幸は、江戸時代の幕藩体制から中央集権国家への改革で、旧武士たちに不満が燻っていました。その心のしこりを解き、国民の心一つにしたいと願っておられた明治天皇が、国民に接することとで「国づくり」を進められたのです。ご先祖以来の「君民一体」の姿に、我が国の伝統文化への回帰を願われたのが、このご巡幸でした。

大東亜戦争後の復興に際しても、昭和天皇の全国ご巡幸が今日の日本繁栄の出発点でした。新しい国を建設するため荒波の中に漕ぎ出す苦難の道を、天皇さまは国民の先頭に立って歩まれました。その国民の幸せを祈られるお姿は、明治天皇の東北・北海道のご巡幸と同じです。

現在では、「海洋国日本」ですが、明治の時代は



まだ汽船による航行には相当の不安があった一般国民も、同行の人々が船酔いに苦しんでいたのに天皇さまは泰然としておられたそうで、それを伝え聞いた国民は、このご巡幸を機に開運と船旅への理解を深め、その利用も急増したそうです。

この「海の日」は、「海の恩恵に感謝する共に、海洋国日本の繁栄を願う」日との趣旨で、海と国家とのあり方を考えようとの意味をこめた祝日なのです。

【お盆】 十五日(一部は七月、大半の地域は八月)

お盆は、ご先祖様を供養する日本の大切な伝統行事の一つです。自然(神)と共に生き、祖先と共に生きる日本古来の信仰や行事と仏教が結びつきました。盆の行事として、迎え火、精霊流し、盆踊りなどがあります。地方によって違うようですが、普通十三日の夕方、門口にわらや木を焚いて(迎え火) 祖先の聖き尊き霊を迎えます。

十四、十五日は、地域や家庭によって様々ですが、棚に、割り箸を差して動物にしたキュウリと茄子等をお供え、僧侶に読経してもらいます。

十六日の夕方また戸口でわらや木を焚いて送り火をし、元の霊界に還っていただきます。

お盆には家で霊を迎えて供養するだけでなく、祖先の眠る墓地をきれいに掃除して十五日にお墓参りをします。

お盆のおはなし く母から子へく

お盆には、霊界で修行されている清らかなで尊い霊が、家に帰ってきて下さるのよ。お供えをして、感謝の気持ちでお迎えしましょうね。



お盆なので、みんなと一緒に墓参りしましょう。このお墓には、ご先祖様が眠られているのよ。おじいちゃんは、日本のことが大好きな人だったの。戦争の時は、命がけで家族を護って下さいました。おばあちゃんは心の優しい人で、困っている人が近くにいるなら、すぐに助けに行く人だったのよ。(ご先祖の話をして下さい)

ご先祖様のお陰で、今ここに生かされて、私達は幸せな毎日の生活ができて、本当に有難いことね。「ご先祖様、いつも私達を護って下さって、ありがとうございます。」と、手を合わせましょうね。

家庭教育 ワンポイントアドバイス

日々暑さが増してきていますね。晴れると耳に入るのが蝉の声。昔はあまり好きではありませんでしたが、今はとても心地よく『蝉時雨』という美しい言葉が鳴き声と共に胸に響きます。

盛夏の時期には連日続く蝉時雨ですが、



蝉の命は儂いもの。とはいえ卵から成虫になるまで三、十七年にもおよぶのだとか。成虫の間にしか卵を産むことができず子孫繁栄のために地上に出たきたといっても過言でないそうです。

生きていくわずかの時間で自らの使命を果たします。それを思うととても愛着が湧き、鳴き声を聴くと応援したくなります。

同じ音を聴くのなら、雑音ではなく、命の響きと捉え味わいたいと思うようになりました。

(北原 明美)

たなばたで りんごみたいなの かざったよ
いつもありがとう たのしいてらこや

ささかざり トマトみたいなのほおずきだ
ねがいごとかいたよ ありがとうさんと



☆願い事に「ありがとうさん」と書いてくれたのね。

てらこやで たなばたかざり たのしいな
どれもきれいだ きらきらしたよ



ようちえんの うんどうかいの かけっこで
いちいになるよう おねがいましたよ

☆きらきらのたなばたかざりをつけてよかったね。

てらこやで ねがいごとを かいただ
かなうといいな おいのりしようね



一年 T・Y
☆短冊に書いたねがいごと、きつとかないますよ。
みんなでおいのりしましょうね。

てらこやで たなばたかざり かざったよ
きれいにできた たのしかったよ

ぼくのゆめ おおきくなって たくさん
人をたすけたい おいしやさんになって

☆りっぱなゆめですね。たくさんの人を助ける人
にきつとなれますよ。



てらこやで たなばたかざり かざったよ
メジャーリーガーになりますと書いたらよ

二年 K・S
☆天からお星さまが願い事を見ておられますよ。

てらこやで たなばたかざり きれいだっ
たいろいろかざれて たのしかったよ

三年 N・E
☆いろいろなたなばたかざりを笹につけましたね。



あじさいは つゆのなかでも 咲いている
むらさき青と 色とりどりだ

六年 Y・Y
☆どんよりとした梅雨空でも、あじさいの花は、
きよらかで美しく咲いていますね。



声に出してひびきを味わおう

今月の言葉

万葉集 第一・一五

第三十八代 天智天皇 御製

わたつみの

とよはたぐも

豊旗雲に

いりひ

入日さし

こよひ つくよ

今夜の月夜

あきらけくこそ

(大意)

かいじょうはる かいじょうはる
海上遙かな天空に、大きな豊かな雲
が旗のようにたなびいている。その雲
に、あかあかと夕日がさしている。この
様子では、さだめし今夜の月は清明なこ
とであろう。

(「万葉の世界と精神」より)

今回は、九月二十八日(土)、六階和室です。

〈八月はお休みです〉

(文責 藤波礼子)

(加古川こども寺子屋より)

しよどうがね たのしかったよ ひとり
ばばにみせたよ ほめてくれたよ



年少 石定 陽菜

☆はじめて筆を持って、太陽の顔に線をいっばい楽しく書けましたね。

たんじょうび ままがくれたよ



かつこいい シルバニアファミリーのくるまだよ

年中 岸 祐大

☆水族館に行った時の事をすらすら和歌にできましたね。

あしたはね ものたんじょうび おおきい
ぷれぜんといっぱいもらうのたのしみだ

年中 岡山 智紀



☆自然教室でバツタを見て、楽しかったですね。

みすいと しるとオレンジ あかやくろ

ダーニーのカーズのくるまもってるよ

年少 瀧川 晴琉

☆初めての書道。楽しく書いてよかったですね。
自然教室も楽しかったですね。

てらこやに ママとはるくと いっしんで
のってきたんだ ホンダのくるま



年長 瀧川 稜紳

☆おいもほりに行った時のことを、すなおに和歌

にできて、すばらしいですね。

おしゅうじを はじめてかいた たのしかった
「みず」ってかいた またかきたいな

小学一年 馬場 心暖

☆初めてなののにのびのびと良い字が
書けましたね。

てらこやで がんばったんだ しよどうでね

きれいにかけた たのしかったよ

小学一年 岡山 晴紀

☆七種類のおじさいの花があつてきれいでしたね。
小さな柿の実の赤ちゃん、かわいかったですね

